

〈反テロ戦争〉に向かう時代に考える一

世界史の中の沖縄/辺野古

2016年〈4・28〉シンポジウム

安倍政権は、5月伊勢・志摩サミットで、集团的帝国主義による〈反テロ戦争〉への本格参入を宣言しようとしている。

琉球列島は空自那覇基地へのF15増強、先島諸島への陸自ミサイル部隊配備等、新日米同盟の軍事要塞として強化されている。

戦争国家化の最前線一辺野古では、米軍と海上保安庁や警察機動隊のむき出しの国家暴力に対し、非妥協・直接行動で対峙し続ける。

壊れゆく世界と劣化する政治、断裂する社会。略奪的な資本の暴力が地球規模で貧困と殺戮を蔓延させる時代に考える、世界史の中の沖縄/辺野古。



田仲康博：1954年沖縄生まれ。国際基督教大学教員。社会学、メディア、文化研究。『風景の裂け目 沖縄、占領の今』『占領者のまなざし 沖縄/日本/米国の戦後』（せりか書房）他。



板垣雄三：1931年東京生まれ。東大名誉教授。イスラーム研究の第一人者。『石の叫びに耳を澄ます 中東和平の探索』（平凡社）『イスラーム誤認 衝突から対話へ』（岩波書店）他。



丸川哲史：1963年和歌山生まれ。明治大学教員。台湾・大陸中国・東アジアの文化と思想研究。著書に『思想課題としての現代中国』（平凡社）『阿Qの連帯は可能か』（せりか書房）他。

- ◆日時 2016年4月24日(日) 13時開場—17時まで
- ◆出席者 田仲康博さん・板垣雄三さん・丸川哲史さん 司会・伊吹浩一(専修大学)
- ◆会場 全水道会館4階大会議室(都営三田線・JR水道橋駅下車)
- ◆資料代 500円
- ◆主催 〈4.28〉シンポジウム実行委員会(呼びかけ 沖縄文化講座 連絡 懶情況出版 Tel03-5213-3238)
- ◆協賛 九条改憲阻止の会 ★賛同・ご協力を! 団体2000円/口、個人1000円/口



私たちの〈4.28〉シンポジウムは2013年からスタートした。「東アジアの中の沖縄と日本を考える」というのが、〈4.28〉シンポジウムの一貫したテーマだった。言うまでもなく、〈4.28〉は、サンフランシスコ講和条約が発効した1952年4月28日。敗戦後7年目にして日本は形の上で「主権」を回復したが、沖縄は過酷な米軍占領下に置かれた。72年「復帰」＝再併合後も変わらぬ沖縄の軍事植民地状況の起点。

〔2013年4月東京－5月那覇シンポ〕

「サンフランシスコ講和条約60+1年」を共通テーマとする連続シンポジウムが、2013年4月28日東京・文京区民センターと5月18日那覇・自治会館で開催された。東京シンポは、司会がジャーナリストの二木啓孝さん、出席は石垣島の太田静男さん、名護・ヘリ基地反対協の安次富浩さん、ピープルズプラン研究所の武藤一羊さん。沖縄の山城博治さんからビデオメッセージが寄せられた。参加者約200人。那覇シンポは、司会が沖縄タイムスの長元朝浩さん、出席は早稲田大学院大学の李鍾元さん、明治大学の丸川哲史さん、太田静男さん、映像批評家の仲里効さん。約120人が参加した（報告は情況誌2013年7・8月合併号に掲載）。

〔2014年4月東京シンポ〕

「東アジアの中の沖縄/日本」をテーマに、2014年4月27日東京・文京区民センターで開催され、約150人が参加した。司会は二木啓孝さん、出席は思想家・詩人の川満信一さん、恵泉女学院大学の李泳采さん、丸川哲史さん。沖縄の安次富浩さん、山城博治さんからメッセージが寄せられた。（報告は情況誌2014年11・12月合併号に掲載）。

〔2015年4月東京シンポ〕

「敗戦70年の日本と沖縄/アジア」をテーマに、2015年4月25日に東京・全水道会館で開催され、約130人が参加した。出席は沖縄の映像批評家の仲里効さん、広島大学の崔真碩さん、明治大学の丸川哲史さん。沖縄の安次富浩さんからメッセージが寄せられた（報告は情況誌2015年7月号に掲載）



▲東京シンポ(13/4/28 文京区民C) ▲那覇シンポ(13/5/18 沖縄県自治会館) ▲東京シンポ(14/4/27 文京区民C) ▲東京シンポ(15/4/25 全水道会館)

..... 切り取り線

★2016シンポジウムの成功に向け、多くのおみなさんの賛同を呼びかけます！（団体2000円/口 個人1000円/口）

賛同者氏名・団体名	住所・連絡先(☎・メール)	□ 数

FAXでお送りください。03-5213-3239